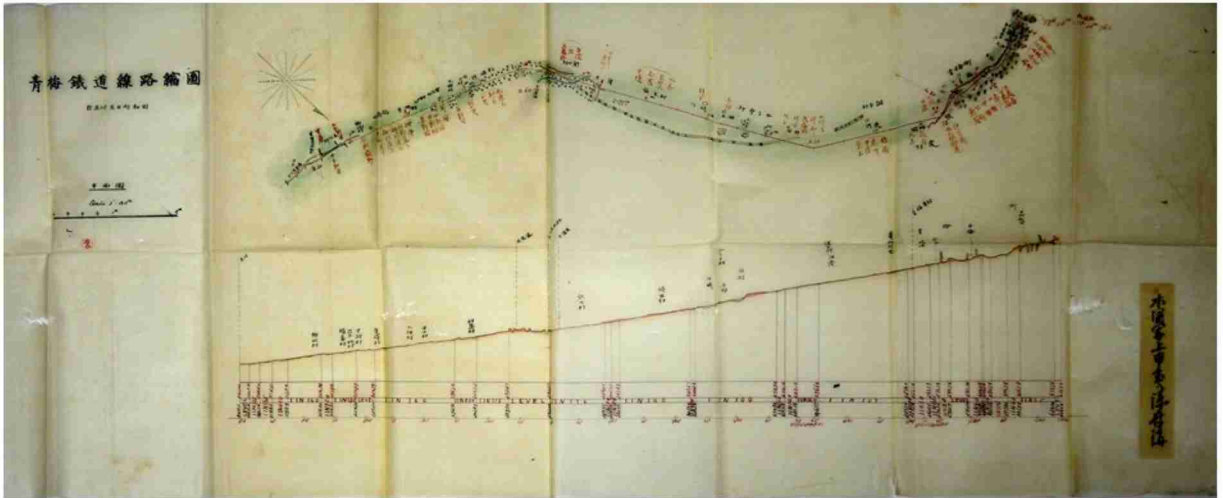


# 青梅鉄道（現JR青梅線）



「青梅鉄道線路縮図」（『第1種 第二課文書類・地理（共8冊ノ6）・鉄道敷地二関スル書類・1・自1至16〈内務部第二課地理掛〉』）

青梅町は、西多摩郡周辺の諸産物の集積地で、とりわけ建築物の西洋化に伴って付近で採掘される良好な石材（石灰石など）が重宝されました。地元の有志たちは、甲武鉄道の立川駅まで単線の軽便（けいべん）鉄道を走らせて東京への輸送を便利にしようと図ります。

明治廿八年四月廿五日改正

青梅鐵道株式會社

表刻時着發車列線梅青

車列リ上				車列リ下			
役	午	前	名	役	午	前	名
七、〇二	三、五一	一、二四	青梅發	八、三三	五、二〇	一、〇〇	立川發
七、一八	四、〇七	一、二七	小作發	八、四九	五、二八	一、二八	拜島發
七、二六	四、一五	一、四八	羽村發	九、〇九	五、三八	一、三八	福生發
七、三五	四、二四	一、五七	福生發	九、一七	六、〇六	二、四六	羽村發
七、四八	四、三七	二、一〇	拜島發	九、二六	六、一五	二、五五	小作發
八、一一	五、〇〇	二、二八	立川着	九、三六	六、二四	三、〇四	青梅着

明治25年（1892）6月に青梅町日向和田を起点に、西多摩郡の霞・調布・福生村、北多摩郡の拝島・大神村などを経て、立川駅に至る路線を申請します。申請は許可され、明治27年11月に青梅鉄道が開通しました。同28年4月の「青梅線列車発着時刻表」をみると、青梅から立川まで1時間9分、午前中に2本、午後に3本運行していたことがわかります。

「青梅鉄道時刻表」（『第3種 第三課文書類・農商（共23冊ノ1）・鉄道二関スル書類・完〈内務部第三課農商掛〉』）